

第48号
寺報

令和8年3月発行

誓願寺

<http://www.hiroshima-seiganji.com/>

発行所 誓願寺
発行人 廣瀬隆慶

〒733-0802
広島市西区三滝本町1-17-1
TEL (082) 237-2481
FAX (082) 237-6955
seiganji@rapid.ocn.ne.jp



住職のお練り導師

御忌大会

法然上人は、建暦二年一月二十五日、八十歳で西方極樂浄土へ往生を遂げられました。

かつては、法然上人の命日である一月二十五日前後に営まれていた法要が御忌と呼ばれていますが、明治十年からは四月に法要を行うように変更されました。

御忌は、法然上人の教えに触れ、その遺徳を偲ぶ法要です。私も一月二十五日の御忌大会お練り導師を拝命して勤修させて頂きました。

令和7年御忌の報告

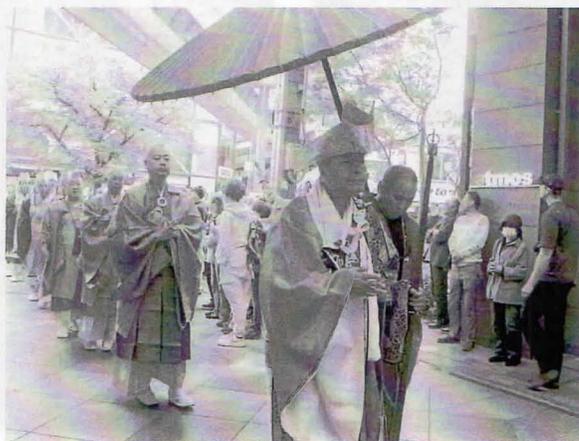
御忌とは

御忌とは、私どもの宗派（浄土宗西山深草派）の元祖である法然上人の忌日法要です。

令和7年4月23日から25日の3日間、総本山誓願寺にて元祖法然上人の御忌をお勤めいたしました。

お練り行道

午後1時30分より新京極商店街を練り歩くお練り行道が始まります。1日目は雨天のため残念ながら行うことができませんでしたが、2日目と3日目は雅楽の楽人衆による生演奏が鳴り響く中、大導師を中心として多くの僧侶がきらびやかな衣装を身にまとい、商店街を一周しました。荘厳な光景に多くの観光客の方々がカメラを向ける中、「南無阿弥陀仏」のお念仏を称えながら全僧侶が堂々と歩きまわりました。



お練りの様子

前説

お練りが終わり、全僧侶が誓願寺に戻ると御忌が始まります。法然上人は多くのお言葉を残されましたが、そのお言葉を前説の僧侶が分かりやすく、参拝者にお聞かせくださいました。

御忌

御忌は、「願我身浄如香炉」から始まり、次に講讃導師が法然上人の高徳を讃え、続いて唱導師がお経を先導したのち僧侶全員で読経し、最後に大導師である倉内管長猥下が「一枚起請文」を拝読する、という流れでした。この「一枚起請文」は法然上人が生前に常に弟子たちに仰っていたお言葉です。それはまさに、浄土宗の本質が説かれた非常に重要なお言葉であるといえます。

総本山誓願寺では、毎年4月に御忌法要を勤修しており、その際、全十二教区の内のいずれかの教区から団体参拝の皆さまをお迎えし、盛大に執り行っています。読者の皆さまもぜひご参拝ください。



【一枚起請文】を拝読する倉内管長猥下

策伝上人の志継承

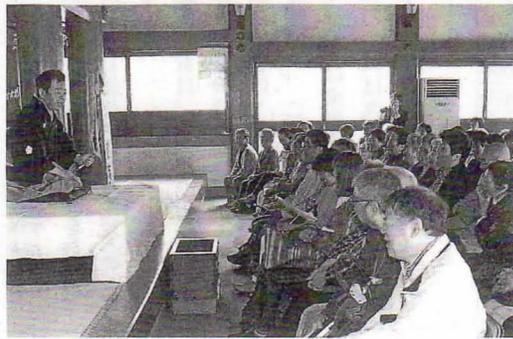
広島市西区の浄土宗西山深草派誓願寺の開祖、安樂庵策伝（1554～1642年）は「落語の祖」として知られる。同寺は、その功績をしのんで落語まつり「策伝会」を毎年4月に開き、ことごと25回目。落語家を招き、笑いを通して参加者を和ませるほか、茶人でもあった策伝にちなんで茶席も設ける。檀家だけでなく、多くの住民が集う行事として地域に根付いた。（桜井邦彦）

広島市の誓願寺

目の策伝会で「奉納落語」を演じたのは、広島市南区出身の落語家、古今亭菊志んさん（44）＝東京都新宿区。本堂に設けられた高座に座り、身ぶり手ぶりを交えながら軽妙な語り口を披露した。午前午後1席ずつこなし、菊志んさんの前座は、広島演芸協会の4人が盛り上げた。

誓願寺は、策伝の意を受けた毛利輝元が1590年に創建。広島三

プロ招き寺で高座25年



古今亭菊志んさん（左端）の落語を聞く策伝会の参加者（広島市西区）

僧侶だった策伝は、笑話を織り交ぜた説教が評判を呼んでいた。策伝が第55世の法主を務めた西山深草派の繪本山誓願寺（京都市中京区）によると、全8巻に約1030話を残した笑話集「醒睡笑」は後に落語のネタ本にもなったという。

「心が若返った」
4月24日にあった25回

絶えなかった。ほぼ毎年参加している広島市安佐南区の三島貞雄さん（87）は「何度も笑わせてもらった。心がリフレッシュでき若返った気がする」と喜び、「人の心を持つ落語の技術は、現代のお坊さんの法話でも参考にできるのではないかと話していた。」

策伝は落語家の間でも広く知られる。菊志んさん

の落語公演が評判で、お参りした檀家たちの望む声もあって翌92年に始めた。毎年4月の第4日曜日を開く。あまり有名でない、仏教と落語のつながりを参加者に知ってもらおう狙いもある。

200人超す参加者
プロによる奉納落語のほか、茶席は、策伝が古田織部の下で上田宗箇とともに学んでいた縁で上田宗箇流が務める。普段は入れない策伝庵もこの日に限って公開。「日頃お世話になっている地域住民への、お寺からのお心掛ける。「策伝会では無料で。参加者は当初50人ほどだったが、コミで輪が広がった最縁の広がりを願う。」

近は200人を超える。策伝会について、広瀬住職は、穏やかな笑顔と思いやりある話し方で人に接することを説いた大無量寿経の「和顔愛語」に通じる取り組みと捉えている。「笑いは人の心を和ませる。皆が笑顔になると、家庭やいろんな場できんかや争いが少なくなるのではないかと強調する。」

「策伝上人は法話の達人」と、僧侶の大先輩としても敬意を払う広瀬住職。その姿勢に学び、普段教えを説く際に場を和ませる話を取り入れるよう心掛ける。「策伝会での皆さんとのつながりが大切に、いろんな形で上人の顕彰を続けたい」と

平成二十八年五月二日
中国新聞「洗心」より

策伝会は、書院と庫裏を改築した91年に営んだ創建400年の大法要で

誓願寺護持会決算表

R6.3.20~R7.3.19 令和6年度

収入の部		支出の部	
護持会費	3,095,000	本山納入費	416,800
教順寺土地借費	3,000	教順寺費	29,000
繰越金	239,185	広島市管理料費	425,470
		印刷費	52,800
		会費	31,000
		本堂補修費	170,000
		墓水道費	11,377
		墓掃除費	240,000
		会館空調費	800,000
		庭園管理費	524,150
		保険費	531,330
		教化費	3,000
		雑費	5,470
合計	3,337,185	合計	3,240,397
		次年度・繰越金	96,788

護持会決算報告

令和六年度の護持会決算を令和七年三月二十日総代三名にて監査して頂きました。

本堂補修費は、本堂入口にスロープの板を取りつけた費用です。会館空調費は、会館のエアコン取り替え費用一、二二六、五〇〇円の一部で、残金は来年度に支払います。令和六年度は九六、七八八円の繰越となりました。

位牌堂改修

本堂の後堂にある位牌堂は、各家の位牌をお祀りしておりますが、近年の仏壇じまい等で、位牌が増加して参りました。

そこで、六十二年ぶりに改修工事を行いました。位牌堂には、位牌だけでなく仏具等もありましたので、棚をつくって整理しました。先祖の大事な位牌を、これからも守って参りたいと存じます。

3月20日(金) 午前10時
彼岸会法要と奉納落語
柳 家 福 治

誓願寺日誌

- ◎三月二十日 春季彼岸会法要と毛利輝元公没後四百年法要を厳修。住職が毛利輝元公についての法話。
- ◎四月二十五日 京都誓願寺での御忌大会法要で、住職が納骨法要の法主代務導師とお練り導師を勤修。
- ◎五月二十五日 尾道光明寺の住職交代式に住職が参衆した。
- ◎六月十六日 熊平製作所物故者追悼法要に住職が導師を勤める。
- ◎七月三日 中広中学校生徒三名が町づくり学習として「横川パンフレット」作成のため取材に来山。
- ◎八月六日 佐東町原爆供養法要に住職が参拝する。
- ◎八月十日 孟蘭盆会法要を厳修。墓前供養は雨のために中止。
- ◎八月十一日〜十六日 盆棚経にて各家檀信徒宅へ廻りました。
- ◎八月二十三日 羽衣町地藏盆に住職が参拝した。
- ◎八月二十四日 福蔵寺盆会法要に住職が参拝して法話。
- ◎九月二十三日 秋季彼岸会法要を厳修。法話は、山口県美祿市の就年寺住職井村龍暢師でした。
- ◎一月一日 修正会法要を厳修。檀信徒各家の御多幸を祈念した。

あ と が き

◎開宗八百五十年慶讃大法要お練り導師を勤めて一年経過した昨年に、法然上人の御忌大会法要お練り導師を拝命しました。無事に勤めて下山することが出来ました。

宗派の広報紙「ちかい」に紹介され、お練り行道の写真が掲載されましたので、ご覧下さい。

◎当山開祖の安樂庵策伝没後三百八十五年を迎えました。策伝上人の顕彰する「策伝会」を三十回行い終了しました。そこで彼岸会法要に奉納落語をお願いして居り、遺徳を偲びたいと存じます。

◎墓じまいや仏壇じまいの多い昨今ですが、墓じまいには永代供養塔を建立して対応して来ました。仏壇じまいでは位牌堂が狭くなり改修工事を致しました。

